

復帰後の建築と歩む

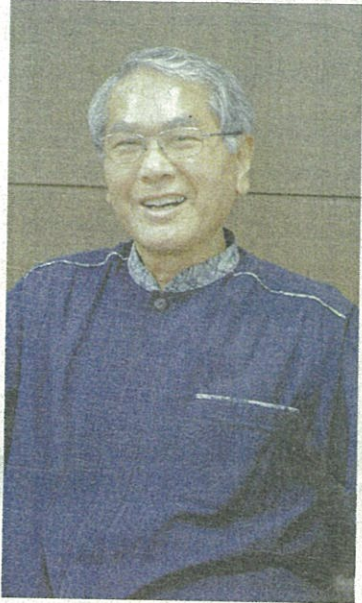
新城会長

黄綬褒章受章おめでとーうございます。

黄綬

新城安雄さん(68)

国建会長



建築・土木設計のコンサルタント業を手掛けて50年。建築構造の設計が専

建築設計監理業務精励

門で、建物の骨組みや設備空調など建築物の基礎となる部分を支える「裏方」に長年従事してきた。

1964年に国建に入社。安心安全をモットーに、首里城復元や美ら海水族館、万国津梁館など、沖縄の象徴ともいえる建築にも携わり、復帰後の沖縄の復興・発展とともに歩めたことはとてもラッキー」と目を細める。

耐震強度偽装事件が発生した当時は、県建築士事務所協会会長を務め、建築設計に関する県民の信頼回復にも尽力。

現在は、建設関連の裁判にかかるアドバイスなど裁判所の専門員も務め「側面的に社会貢献していきたい」と意気込む。

(八重瀬町後原401の2)

↑

沖縄タイムス 2012年(平成24年)11月2日(朝刊)

街の基盤整備に力

黄綬

建築設計監理業

新城安雄さん(68)



建築に関わり50年。まだ県内産業が十分に発展していなかった復帰前からインフラ整備に尽力してきた。専門は設計を支える建築構造。「街づくりに関しては、社会的に貢献してきたと思う」と自負する。

現在、建設関連の裁判にかかるアドバイスなど裁判所の専門員も務め「側面的に社会貢献していきたい」と意気込む。

(八重瀬町後原401の2)

琉球新報

2012年(平成24年)11月2日(朝刊)